

役割を述べた。

51. 糖尿病性下腿切断 (第2報)

長尾竜郎 (高志リハビリテーション病院)
浅野 裕 (西能病院)
野口哲夫 (マサキ整形外科クリニック)

症例は57歳・家婦・10年来のDM, 釘を踏み抜いて受傷後, 徐々に右足部壊死と膝高部にいたる腫れを生じ当院転院。入院時相当重篤なるも即日, 開放性足関節離断による排膿・洗浄を行う。強力な抗生剤・インシュリン・輸血・酸素吸入等により, 急速に緩解し, 離断19日後閉鎖性下腿切断施行。切断16日後訓練用仮義足, 4カ月後断端創治癒を見てPTB義足処方, 訓練3カ月後自宅退院。段階的切断法を含む外科的・内科的治療により, 救命と膝温存に成功した症例である。

52. 自家筋力による膝蓋靭帯皮下断裂の1例

久光淳士郎, 荻野 透, 根本哲治
大瀬真人, 渡辺英詩 (渡辺病院)

比較的まれな自家筋力による膝蓋靭帯断裂の1例を経験した。基礎疾患を持たず, 骨片を含まない症例は, 我々の渉猟し得た範囲では, 過去40年間に25例であった。診断は局所所見と画像所見とにより, 困難ではないが, 初診時に誤診されることが多いとの報告があり, 膝の外傷における鑑別診断の1つとして大切である。我々は絹糸法を用いて, 受傷早期に手術を施行し, 良好な結果が得られた。

53. 徒手整復不能であった膝関節脱臼の1例

佐野 栄, 永原 健, 青柳康之
中川晃一, 三橋 繁, 藤田耕司
佐粧孝久, 三橋 稔
(習志野第一)
広瀬 彰, 坂本雅昭 (市立海浜)

スキー中に転倒し受傷した徒手整復不能な膝関節脱臼(54才男性)の1例を報告した。内側関節裂隙に一致する皮膚陥凹を認め, MRI上, 顆間部での介在物を認めた。介在物は内側膝蓋支帯であり, これを整復し, 内側側副靭帯修復及び前・後十字靭帯 pull-out を施行した。文献上, 内側膝蓋支帯がボタンホール状に裂け, 大腿骨内顆が突出する例を散見するが, 本例では2ヶ所で裂け帯状に顆間部に嵌頓していた。

54. 高度変形性膝関節症に対する鏡視下デブリードマンの適応

佐粧孝久, 和田佑一, 守屋秀繁
(千大)

従前, major knee surgery の対象とされた, 内側型の高度変形性膝関節症に対し, 鏡視下に徹底したデブリードマンと, 内側関節包の剥離を組み合わせた手術(AAA: aggressive arthroscopic arthroplasty)を施行した。その結果, 疼痛や歩行能の改善は顕著で, 短期間ではあるが, 良好な結果が得られた。低侵襲な手術であり, 従来のデブリードマンの適応対象をより広げることが可能であると考えられた。

55. 小児化膿性関節炎の治療

葉 國璽, 亀ヶ谷真琴, 篠原裕治
(県こども)

目的: 当院で加療した小児化膿性関節炎の不良例について検討した。

対象: 27例27関節で, 男児20例, 女児7例である。発症時の平均年齢は7か月であり, 経過観察期間は平均3年であった。

結果: 罹患関節は股関節が16例と最も多かった。成績評価は臨床所見及び単純X線所見によって行った。この結果, 不良例は9例であり, その因子について検討すると, まず, 発症から治療までの期間では, 他医にて初期治療として保存療法を受けた1例を除き, すべて発症後6日以上であった。治療法で見ると, 観血的治療21例中5例(24%), 保存的治療6例中4例(67%)と保存治療群に高率であった。起炎菌については黄色葡萄球菌9例中2例, 溶連菌1例, E. cloacae 1例であったが, 中でも不明なものでは6例中5例と高率に不良例が見られた。早期に観血的治療を行ったものは全て成績良好であった。

55-②. 陳旧性脛骨顆間隆起骨折の治療経験

国吉一樹, 西山秀木, 今野 慎
丸田哲郎 (熊谷総合)
木村 純 (木村整形外科)

陳旧性脛骨顆間隆起骨折2例を経験した。症例は23歳男性と28歳女性。ともに他医での保存療法施行後に膝の不安定感, 伸展制限が持続し初診。単純X線写真で偽関節を認めた。手術は関節切開下に骨片の新鮮化と整復を行い, pull out 法による固定を行った。結果, ともに良好な骨癒合が得られ, 膝の不安定性および伸展制限は消失した。整復固定術は本骨折に対しまず試